

献体の摘出喉頭・気管を用いた発声・呼吸・嚥下に関する検討

1. 研究の対象

平成 29 年度の杏林大学医学部解剖学教室解剖実習に献体を提供していただいた方

2. 研究目的・方法

頭頸部領域には呼吸、発声、構音、咀嚼、嚥下といった日常生活における重要な機能を司る器官が集中しており、過去には動物から摘出した喉頭を用いて発声に関するいろいろな研究が行なわれ、臨床につながられてきました。

嗄声の代表的な疾患の一つに一側性声帯麻痺があり、声帯内方移動術や披裂軟骨内転術、さまざまな注入物質を用いた声帯内注入術などが行なわれ、発声に必要な声門閉鎖を得る術式が今まで開発されてきました。今回摘出した喉頭を用いて、本手術手技の確認を行ない、技術の向上を目的としています。また、気道確保を目的として行われる気管切開が行なわれた患者において、気管カニューレは発声・嚥下機能に大きな役割を果たすことが知られています。近年、従来は不可能であったカフ上の吸引ラインの部分から送気することが可能なカニューレが登場しており、人工呼吸器を使用しながらの発声や、のどを乾燥させることで嚥下機能の改善ができる可能性があります。しかし、実際にはどのくらいの空気量・空気圧で発声やのどの乾燥が得られるのかは詳細に検討されていません。今回摘出した喉頭・気管を用い、現在市販されているさまざまなサイズの気管カニューレを用いて、発声に有効な空気量・空気圧や、送気する適切（安全）な空気量や空気圧を測定することを目的としています。また将来的には、本研究成果を臨床現場にフィードバックすることで、一側性声帯麻痺の患者に対する音声改善手術手技の確認および、気管切開患者に対する嚥下や呼吸が安全に行なえるような情報の提供を基礎とし、きめ細やかで良質な医療を提供することを目的としています。

上記の検討時には摘出した喉頭・気管をハイスピードカメラなど内視鏡システムを用いて撮影、録画して評価を行います。

研究期間：倫理審査委員会承認後より 5 年間

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：献体の摘出喉頭・気管

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについてご本人・患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

耳鼻咽喉科 専攻医（大学院生） 宮本 真

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-6

TEL：0422-47-5511（内線番号 4953）

Fax：0422-42-5968

E-mail：miyamotm@ks.kyorin-u.ac.jp

研究責任者：耳鼻咽喉科学 助教(任期制) 渡邊 格